



多数のご応募ありがとうございました！

今年度は、教育実践論文へ33点の応募があり、審査の結果、以下の論文が入賞となりました。優良賞の論文については、3月中旬にWebに掲載します。ぜひ、ご覧ください。

校内研究の部

- | | | | |
|-----|------------------------------|----------|---------------|
| 優良賞 | 唐津市立外町小学校 | 校長 砂後 典之 | 研究代表 教諭 新 真一 |
| | 研究主題 主体的に問題解決に取り組む児童の育成を目指して | | |
| 優良賞 | 鳥栖市立鳥栖西中学校 | 校長 伊東 栄次 | 研究代表 教諭 陣内 彩 |
| | 研究主題 達成感を味わう授業の実現に向けた指導法改善 | | |
| 奨励賞 | 武雄市立武雄北中学校 | 校長 林 正昭 | 研究代表 教頭 内田 和一 |
| | 研究主題 自己を見つめ主体的に生きる生徒の育成 | | |

個人・グループ研究の部

- | | | |
|-----|--|----------|
| 優良賞 | 上峰町立上峰小学校 | 教諭 田本 嘉昭 |
| | 研究主題 地域を大切にする児童を育成する社会科学習の工夫 | |
| 奨励賞 | 佐賀市立高木瀬小学校 | 教諭 鶴田 敦司 |
| | 研究主題 読み書きにつまずきのある児童のアセスメントに基づく効果的支援の研究 | |
| 奨励賞 | 佐賀市立高木瀬小学校 | 教諭 松田 洋子 |
| | 研究主題 ときめく心で造形する子どもを育てる図画工作科の指導 | |

審査を終えて

各学校におかれましては、日々、熟考に熟考を重ね、試行錯誤を繰り返しながら教育活動に邁進されておられることと思います。それに加えて、今回ご応募いただいた先生方については、教育論文という形にするに当たり、まずこれまでの教育活動を見つめ直し、そして仮説を立て、実践及びその検証を行うという系統立てた研究に取り組まれたことでしょう。さらには、文章にして表さなければならず、一連の作業には膨大な時間と労力を払われたことと思います。

今回ご応募いただいた教育実践論文は、各学校及び目の前の児童生徒の課題解決を目指した優れた取り組みで、いずれも教育効果があると読み取ることができる、レベルの高い研究ばかりでした。また、これらの取り組みを、県内の先生方に広げていただくことで、今後、佐賀県教育活動の活性化につながるものと思ったところです。

最後に、人を育てるというものは、どんなに思いを巡らせても終点がないものです。だからこそ、我々教育に携わる者たちは、次を見据えて挑む活気を持ち続けなければならないと思います。今回の審査を通して、教育センターはこれからも皆様とともに切磋琢磨しながら、教育研究に取り組みたいという思いを新たにしました。

(情報課長 土井 一生)

学習状況調査「12月調査」の実施及びその後の作業等、ご協力ありがとうございました。今後は、各学校からいただいたデータを基に、各種資料の公開に向けて取り組んでいるところです。今回は「12月調査」の調査結果公開に関する今後のスケジュールについてご紹介します。

12月	調査実施 (12/8/9) 終了
	「個票ダウンロード」公開 (1/7) 済 ・設問別調査結果
1月	「分析システム」公開 (1月下旬予定) ・経年比較 (同一学年、同一児童生徒) ・「活用」に関する問題の正答率比較
2月	学習状況調査の分析・活用講座開催 ・県内各所で開催 (2月上旬・中旬) Web報告書公開 (2月上旬予定)

各データのダウンロード 調査結果を多角的に把握できます！

小学校メニュー

- ・児童生徒名簿取込・管理
- ・教科に関する調査の入力・入力チェックリストの入力
- ・資料ダウンロード
- ・教師意識調査の入力・修正

・**個票ダウンロード**

・**分析システム**

個票ダウンロード (公開済み)

例えば、「設問別調査結果」では、設問ごとに、出題の趣旨、「十分達成」「おおむね達成」の基準、県正答率、本校正答率等が一目で確認できるように一覧表で表示されます。各学校での資料作成等にご活用ください。

出力データの一部

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等	評価の観点	問題形式	活用	正答率	無解答率	期待正答率	到達状況
1	相手の意図に応じて適切な言葉遣いで話す	話す・聞く	①話す・聞く	選択式	活用	86.1 86.4	0.1	A	85 65
1	聞き手を意識して、言葉の抑揚や強調、間の取り方に気を付けて話す	話す・聞く	②書く	選択式	活用	82.1 87.2	0.1	A	85 65

設問ごとの正答率 (自校と県)

期待正答率と到達状況

分析システム (1月下旬予定)

各学校のデータを集約したものを、経年比較及び「活用」に関する問題についてグラフで確認することができます。調査結果から見える自校の課題を、職員間で視覚的に共有することができます。

【経年比較】

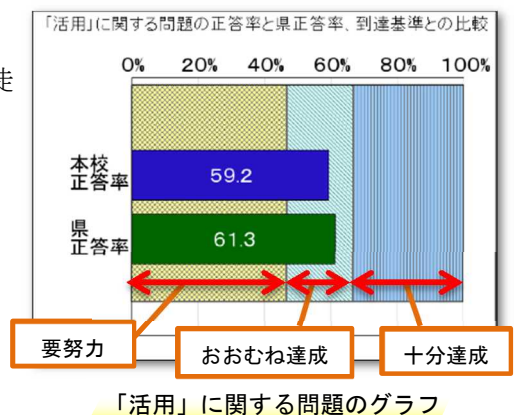
平成27年度調査までの3年間の推移が一目で分かり、児童生徒の成長や指導の成果を把握することができます。

詳細については、ミネルバ139号p.3をご覧ください

<http://www.saga-ed.jp/shien/mineruba/archives/0139.pdf#page=3>

【「活用」に関する問題の正答率】

「活用」に関する問題についての到達状況について、県正答率や到達基準と比較した棒グラフで確認することができます。



「活用」に関する問題のグラフ

分析・活用講座 県内3か所で開催します！

「分析システム」から出力されたデータの見方や分析の仕方が分かります。自校の学力向上に向けた校内研修での活用方法について学ぶことができるような内容です。北部支所管内に若干の余裕があり、追加の申し込みが可能です。是非、参加をご検討ください。

開催地区	期日	定員状況
東部教育事務所管内	2月2日(火)	満
西部教育事務所管内	2月12日(金)	満
北部支所管内	2月4日(木)	余裕あり

※いずれも13:30開始、「定員状況」は1/18現在のものです。

Web 報告書 2月上旬掲載予定

教育センターWebに、「12月調査」Web報告書を掲載する予定です。今回の調査に関する成果や課題、指導改善のポイントがよく分かります。

是非、ご覧ください。



教育センターWeb トップページ

「試行版：第2回サタセン高校化学」を実施しました

12月19日（土）の14:00～16:00の2時間、教育センター化学実験室で実施しました。今回は、教職1・2年目の若手の先生方を含む13名にご参加いただきました。

まず、センター所員によるアクティブ・ラーニングの基本的な考え方について説明し、その具体的な授業方法の提案として、ポリビニルアルコール（PVA）を用いた実験を取り入れながら模擬授業の形式で研修を行いました。

★「サタセン」とは…

平成28年度から土曜日を活用した自主参加による研修会（「サタデー・センター」、略して「サタセン」）を企画しています。

今年度はその試行に取り組んでいるところです。

【今回の実験の内容】

PVAに、四ホウ酸ナトリウムを加えた場合の変化（スライムの作成）と食塩を加えた場合の変化（塩析によるスーパーボールの作成）とを、化学反応式・構造式を踏まえて、それぞれを比較しながら仮説を立て、実験・考察に取り組みました。

また、派生実験として、スライムを用いた燃料電池の紹介と、スライムに様々な物質（クエン酸、炭酸水素ナトリウム、食塩、クエン酸+炭酸水素ナトリウム）を加えて、弱酸遊離等の化学反応について考察する方法について紹介しました。



スライムの燃料電池

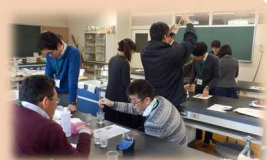
～あるベテランの先生のご感想～

「PVAからの派生実験を探究活動として取り組むことができないか考えてみようと思った。」

☆ 次回は、3月12日（土）に開催します。

多くの先生の参加をお待ちしています！

☞ 長期研修担当 神代 まで（0952-62-5213）



所員の「おすすめ図書」

図書資料室では、最新の教育情報の提供のために、蔵書の充実を目指しています。今回は、アクティブ・ラーニング、通常学級での特別支援教育についての図書をご紹介します。

アクティブ・ラーニング

『生活・総合アクティブ・ラーニング 子どもたちの「能力」の育成と「知」の創造を実現する授業づくり』（田村学／みらいの会）

「これからの教育は、教師が教え込むのではなく、子供が活動や体験を通して自分事として学んでいく」と四半世紀以上も前に宣言され、そして生まれたのが生活科であり、その生活科の学びを引き継ぐのが総合的な学習の時間です。生活科と総合的な学習の時間は、まさにアクティブ・ラーニングの考え方を踏まえた教科・領域であり、その授業づくりの手法は、様々な指導のヒントとなることでしょう。本書には、具体的な展開例も多数掲載されています。（研究調査担当 福山 信代）

特別支援教育

『実践 通常学級ユニバーサルデザインⅡ』（佐藤慎二／東洋館出版社）

通常の学級には、「集中して話を聞くことが難しい」「書く作業に時間が掛かる」など、学習面や行動面で困難を示す児童生徒がいます。また、先生方の中には、「学級全体を指導しながら個別に対応することは難しい」と、授業づくりに悩まれている方がいらっしゃるのではないのでしょうか。本書では、通常学級ユニバーサルデザインを、「配慮を要する子どもには『ないと困る支援』であり、どの子どもにも『あると便利で・役に立つ支援』を増やす」と捉え、授業づくりのポイントを分かりやすく示しています。是非、参考にしてください。

また、同シリーズの『実践 通常学級ユニバーサルデザインⅠ』では、学級経営に焦点を当て、学級づくりのポイントや児童生徒の問題行動への対応について示されています。こちらも一読されることをおすすめします。

（生徒指導担当 伊東 一義）